

9月半ばに定植（畑に苗を植えること）して、11月下旬に収穫を迎えた黄芯の白菜「あきめき」の畑にて。茨城県八千代町の小野寺孝一さん（72歳・左）ときよ子さん（67歳・右）。土壌消毒を行わない畑には、野の花が揺れています。

白菜の一大産地の町で40年以上、
自分の栽培を貫く小野寺さん夫婦。
収穫したての白菜はふくよかで、
朝日を浴びてきらきらと光っていました。
2人のあたたかな野菜作り。

ふたり 白菜の町で





一つ3kgにもなる白菜を抱えて、外葉を落としながら収穫していきます。手を止めることなく前に進んで、畝一列が終わるとほっと一息、また次の畝へ。

大きな白菜を 一つ一つ収穫

ざくざく、ぱらり。畑の端から2人で並び、白菜の根元を包丁で切つて外葉を外しながら、一つ一つ脇に積んでいきます。白菜はずっしり重く、抱えるのにも一苦労。それでも畝の列ごとにスタートした収穫はそろって終了し、次は反対の端からダンボール箱におさめます。この日は80箱300コ以上を採りました。

これが小野寺孝一さん(72歳)、きよ子さん(67歳)の白菜の収穫風景。慣れた手つきとはいえず、「包丁片手に白菜抱えてかがむでしょ。腰が痛いどこじやないよ。アハハ」と、きよ子さん。けれども、「孝一さんの野菜は白菜でも長ねぎでもなんんでも甘みがあるんだって。大変だけど、みんながおいしいって喜んでくれるから、それが一番じゃないの」と、清々しい笑顔を見せます。

畑を休ませ 野菜を ローテーション

茨城県八千代町は筑波山を望む平野が広がる町で、農地が多くを占める場所。白菜の出荷量全国一位を誇る茨城県の中でも、特に出荷量が豊富な一大産地です(※)。

孝一さんはこの地で生まれて農家を継ぎ、自身の代で農薬や化学肥料に頼らない栽培に切り替えました。「ここは白菜の産地だからね。産地として維持していくために、あらゆる手段を使って栽培してるところも多いよ」と孝一さん。「だけどもうちはそういうことはしたくない。無理せず自然な時期に定植して、ち

今日も 手も重かす

やんと根付いて、健康に育つのがいいよな」と静かに語ります。「連作障害」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。同じ畑で同じ科や品種の作物を作り続けると、生育が悪くなったり、収穫量が減ったり、病害虫が発生したりといったことがおこりやすくなります。たとえ

ば白菜を植え続けると白菜が好む養分が土の中で減り、白菜に寄り付く病原菌が増える。こうして土の中のバランスが偏っていくことで、採れない、育たない、病気になるといった障害が生じるのです。

農家にとって死活問題のこの障害を防ぐために、一般的な栽培では土壌に消毒剤を散布します。そうすることで白菜は春と秋冬の2回栽培が可能になり、効率的というわけです。しかし孝一さんは、「うちは1年に1作」と、白菜は秋冬にしか作りません。畑を休ませている間に自家製のたい肥を入れて土を活性化させ、

土壌消毒に頼らない代わりに、異なる作物を交替で栽培したり圃場を変えたりします。キャベツの翌年は長ねぎ、その後は3年休んで白菜といった具合に、ローテーションを組む

ことで土の健康を保つのです。使うのは農薬ではなく植物の力、そして人の知恵。露地栽培とハウス栽培合わせて24カ所もある圃場で、夏はメロン、秋冬は白菜やキャベツなど約10種類の野菜を作る中、「圃場×作物×時期」を組み合わせて栽培しています。

「草が生えてんのがうちの畑だよ」と孝一さんが案内してくれた畑には、ぺんぺん草やホトケノザが花を揺らし、ハコベが青く蔓延っています。「草が生えんのが当たり前。草が育つたら作物も良くできるんだ」と孝一さん。人間の都合に合わせて、草だけ生えず、野菜が育つということはありません。この姿こそ「健康な土」。しかし、草に悩まされる現実もあります。

草は生を 薙も降る

「今年の夏は乾燥して暑かった割に草の育ちが凄まじかったよな。この畑で何回草取りに入ったっけな」と孝一さんが尋ねると、「忘れちゃっうほど入ったよ。覚えてらんないよ

な」ときよ子さん。だいたいのことを「手でやる」という2人は、草も鎌で刈り取りますが、この夏はかつてないレベルだったと話します。作物の生育時期に草が茂ると、栄養も日光も取られるうえに虫も付きます。猛暑の中、少しでも日が陰ったころにと15時ごろから4〜5人の草取りに追われる日が続きました。加えてこの秋は、激しい電が1帯を襲いました。被害が特に大きかったのは定植から1カ月の白菜畑。隣り合う白菜の外葉同士が重なった生

いきいきと断面から水分あふれる白菜。ダンボール箱で出荷するため、週間予報を見て、雨予報だと収穫は前倒しします。





- ❶葉がぎっしりと豊かなサニーレタス。寒さに弱いため露地栽培は強い霜が降りる前の12月まで。
- ❷目覚めると天気を気に向け、畑を回るのが日課。「観察力を高めることが大事」と植物の声を聞く栽培を行ってきました。
- ❸採りたての白菜の外葉は外して鶏にあげ、あとはお昼のおかずにも。
- ❹繊細な春菊はハウス内でさらに寒さよけの被覆を行い、朝夕開閉に回ります。上から25cmのところを手でばきと折って収穫。
- ❺夏にメロンを作るこのハウスで秋冬はかぶを栽培。ハウスには炭と米ぬかを入れて土を作っていますが、「満遍なく撒けるから」と、こちらも「手で」撒きます。



長半ばのころです。
 「電が打ちつけて外葉は穴だらけ。ずいぶん傷めつけられて、かわいそうだった。自然には勝てないからどうにもならないな」と、孝一さん。きよ子さんも「来年は電が来ませんように折るくらいしかできないもんな」と受け止めます。
 被害にあったのはやわらかくて甘いと評判の品種「めぐみ」。1万2000株です。育つかどうかと見守る心中は計り知れません。

誇れる野菜も作ってきた

孝一さんが現在の栽培に至ったきっかけは40年ほど前に遡ります。「ある人に、この先、輸入が自由化されたら大規模農業にはかなわない自分が責任を持って、誇れる作物を作った方がいいっていわれたんだよな。それには10年先を見据えて、土作りを大事にするんだって」。

1980年代、農業や化学肥料を使わない栽培が珍しい時代に、「まずは植物が根を張る土から責任持って作るべき」と説く人がいました。孝一さんは先生と仰ぐその人との貴重な縁を得て、「植物の特性を生かす」栽培に舵を切ったといいます。

それから40余年が経ち、孝一さんが作る作物は見事な味と評判に。誇れる作物を目指してやってきて、実を結んだと胸を張るでしょう。

翻って私たち、作物を受け取る側に目を向けます。一つ3kgにもなる白菜の収穫や、炎天下の草取り、電で被る損失。遠い産地の出来事を、自分事と捉えるのは難しいかもしれません。しかし、その負担を生産者だけが負うのではなく、私たちは心の距離を近づけ、日々の料理で積極的に食することで応援したいと思えます。

この日、きよ子さんが白菜づくりの食事をふるまってくれました。白菜は漬ける、蒸す、和える、揚げる、と、目の前で七変化。「白菜をいっぱい食べてはしくて」と差し出す料理には、光が差すようなぬくもりを感じました。旬のおいしさはまだ続きます。皆さんもどうぞ召し上がってみてください。

※出典：農林水産省ホームページ「作物統計調査／状況調査（野菜）確報令和3年度野菜生産出荷統計」2022年12月20日公表

みずみずしい冬の活躍野菜
 ぎゅっと凝縮甘み白菜
 1112 蔵
 1/4コ
 198円（税込214円）



1113 蔵
 1/2コ
 298円（税込322円）
 ※中の葉が黄色のオレンジクイーンという品種をお届けする場合があります。



甘み濃く、やわらかな食感
 かぶ
 1074
 400g
 318円（税込343円）



※異なる産地のものが届く場合があります。
 ※同時配布の『カタログ大地を守る』とお買い物サイト104号を合わせてご覧ください。



- ❻豚バラ白菜蒸しと白菜ツナサラダ、かき揚げ、白菜漬けが並び、きよ子さんの白菜フルコース。
- ❼「夕べ慌てて漬けたんだよ」と白菜漬けで出迎えてくれます。
- ❽塩もみしてツナと和えたサラダにゆずをぎゅっと。「旬だからね」と庭から採ってきたばかり。
- ❾「出荷されない下の部分がじつはおいしい」と、春菊の茎をさっとゆでてくれました。香り高く歯ごたえも良く、山菜の趣です。

ソーシャルレポート

今号は、パレスチナの現状と、2022年度の「スマイルオリーブ基金」のレポートです。

編集後記 ↓ 農業や化学肥料に頼らない栽培では具体的にどのようなことを行っているのか。前号は土作りについてお伝えしましたが、今号は栽培する作物・圃場・時期の組み合わせのお話。小野寺孝一さん・きよ子さんのおうちに着くと、準備してくれていた白菜料理がずらり。とってもおいしかったです！（編集部・大麻）

パレスチナに平和を。「スマイルオリーブ基金」

オリーブオイルの産地で起きていること

2023年10月7日から始まったパレスチナ自治区ガザ地区とイスラエルでの大規模な武力衝突により、パレスチナとイスラエル双方の市民に多数の犠牲者が出ています。11月28日現在、一時的な停戦が報道されていますが、予断を許さない状況です。大地を守る会はパレスチナ産のオリーブオイルを販売しており、これはヨルダン川西岸地

区(以下、西岸地区)で生産されています。ガザ地区の状況は逐一報道されていますが、西岸地区についての報道はごくわずかです。生産者団体からの報告によると、西岸地区でも200人以上のパレスチナ人が殺害されているとのこと。これは西岸地区に違法に入植している入植者たちとイスラエル軍による被害とのこと。

オリーブ畑へ収穫に行くにも許可が必要

多くのパレスチナ人は、自分のオリーブ畑へ収穫に行くにもチェックポイントを通らなければならず、緊張状態が高まっている現在、畑に行く許可が下りないという状況が発生しています。10月からオリーブの収穫が始まりましたが、入植者とイスラエル軍による発砲、さらにはオリーブの木の伐採などの妨害で収穫が思うようにできず、

今シーズンの収穫は大幅に減少する見込みです。スマイルオリーブ基金は、オリーブの苗木の購入などの農業支援に充てられていますが、今回の人道危機に対し、102~104号の販売分は1本につき100円を、パレスチナ産地支援、日本赤十字社によるイスラエル・ガザ人道支援に寄付します。皆さんのご支援誠にありがとうございます。



1 収穫の時期と紛争が重なってしまい収穫量が減少する可能性も。
2 ハーブの定植を準備。紛争時でも農作業を続けています。
3 自分の畑に行くにもイスラエル軍のチェックポイントを通ります。

ご協力
ありがとうございました！
2022年度の寄付金額
99,600円
※2022年4月1日～2023年3月31日の合計金額



▲今回の紛争の現地支援についてはこちら



オリーブオイル
(パレスチナ自治区産)
1643 450g 2,527円(税込2,729円)
原産国/パレスチナ自治区
④オルター・トレード・ジャパン
(東京都新宿区)
※1本につき100円がパレスチナの生産者支援、日本赤十字社によるイスラエル・ガザでの人道支援に寄付されます。

イベント

食や人など、さまざまな出会いあり！
**大地を守る会
オーガニックフェスタ2024**
2024.2.24(土) 10:00～16:00



年に一度、大地を守る会の生産者が全国各地から集まる「大地を守る会オーガニックフェスタ」。生産者とおしゃべりしながらお買い物ができるマルシェやワークショップ、トークなどを準備中です。最新情報・詳細は、大地を守る会のホームページやSNSなどをご覧ください。

DATA
会場……東京交通会館12階(千代田区) ※JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」京橋口・中央口(銀座側)より徒歩1分
参加費…無料
申込……不要 ※当日、会場に直接お越しください。
主催……大地を守る会

※当日17:00(予定)より同会場にて、交流パーティー(当日申込、有料)も開催します。

開催しました！
一生の思い出になる！
鯉節作りを見に行こう！
2023.10.29(日)
カネサ鯉節商店(静岡県西伊豆町)

江戸時代から鯉節の三大名産地とされる「伊豆節」の源流、西伊豆田子地区に伝わる「田子節」の製法を守り製造を続ける、創業1882年のカネサ鯉節商店を訪問。身近でも知る機会が少なくなりつつある鯉節について、その起源である「潮鯉」の現物を見ながら歴史的背景のお話を伺い、参加者の皆さんからは「とても勉強になった！」という声を多くいただきました。用途により使い分ける何種類もの包丁で形良く捌かれた鯉を、茹で、燻し、カビ付けし、天日で干し、熟成させる。完成まで半年かかるというその技術に敬意を払う時間となりました。鯉節削り体験では、削りたての芳醇な香りと味を堪能。次回も乞うご期待です！

▲左から、燻す工程までの「荒節」、荒節の表面を削り取った「磨き節」、カビ付けを繰り返した「本枯れ節」。

▲鯉1本を捌く実演。何種類もの包丁を使い分けながら、手際よく捌いてきれいな節が完成。

▲鯉節削りを体験。やっぱり鯉節は削りたてが一番！

▲鯉を丸ごと塩に漬けて乾燥させた「潮鯉」。お節りを付けてお正月に飾っていました。

『NEWS大地を守る』はWEBでもご覧いただけます。イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。
<https://www.daichi-m.co.jp/>



イベントは左記WEBサイト内の「イベント情報」へ。

お問合せ

大地を守る会サポートセンター TEL●0120-158-183
受付時間●月～金・午前9:00～午後5:00/土・午前9:00～午後1:00
お問い合わせフォーム●<https://takuhai.daichi-m.co.jp/support>
E-mail●support@takuhai.daichi-m.co.jp

●『NEWS大地を守る』に掲載している取り組みは、主に大地を守る会の宅配サービスの年会費・利用料で運営されています。

注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>



発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
TEL 050-5306-8513